

発音が気になる子

多くの場合は機能性構音障害ですが、まれに医療的対応が必要な口蓋裂や鼻咽喉閉鎖機能不全による器質性構音障害もあります。

発音の誤り

- ・カ行音がタ行音に、ガ行音がダ行音になる（おかあさん→おたあさん）
- ・カ行音がタ行音やチャ行音、シャ行音になる
（せんせい→てんてい、ちえんちえい、しえんしえい）
- ・ザ行音がダ行音やジャ行音になる（ぞうさん→どうさん、じょうさん）
- ・ラ行音がダ行音になる（らいおん→だいおん）
- ・鼻から抜けるような発声
- ・のどをつめたような発声
- ・一つずつの音は正しく発音できるのに、会話になると音の置換が多い

望ましい対応

- ① 食事の時にしっかりかむ
- ② 発語器官（口唇・舌）を使う遊び
（シャボン玉、ストロー吹き、風船、紙風船、口じゃんけん、うがい等）
- ③ 音の聞き出し遊び

発音の誤りに関係なく、話の内容をしっかり聞いて話を広げ会話を楽しむ。おしゃべり好きな子にする。

発語器官をしっかり使うことで動きが器用になる。正しい発語獲得へ

避けたい対応

- ① 発音の注意をする
言い直しをさせられて自己肯定感が下がる。話すことが嫌いになる。
- ② 言い直しをさせる
正しく発音できていない音を何度も言わせても、間違った音の発音練習を繰り返していることに過ぎないので意味がない。

こんな時は相談機関へ

- ① 年少でカ行音・ガ行音を全く発音できない場合
- ② 5歳になってサ行音・ザ行音・ツの音が正しく発音できない場合
- ③ 発音の誤りを気にして話することを避けるようになった時
相談の場通級指導教室（ことばの教室）、言語聴覚士（病院・療育施設）